

第 3 回 JSMP 大会支援委員会 議事録

令和 3 年 (2021 年) 6 月 3 日

書記：櫻井

出席者 20 名 委員長◎ 副委員長○	兼松伸幸◎、阿部慎司、有村秀孝、小澤修一、亀澤秀美、川内野友彦、川村慎二、久米恭、齋藤秀敏、櫻井勇介、中村光宏、乳井嘉之、林直樹、福田茂一、藤崎達也、水野秀之、蓑原伸一、明上山温、山本 徹、米内俊祐 ※Zoom を用いた遠隔会議にて実施
議事録	<p>第 1 部 6 月 2 日 (水)</p> <p>1. 前回議事録の確認 変更なく承認された。 前回現地参加で未登録者は申し出を。</p> <p>2. 第 122 回大会の報告 (福田)</p> <p>4/20 の準備会合にてオンライン開催を決定 各委員の写真を選定中。 委員会メンバーの追加：Park 氏、通訳のできる方 ポスター発表形式：1 分以内のプレゼン、WEB 上には 5 分程度の PPT 謝金：各学会別に送金 (金額未定)、座長には電子付与を想定 受賞：できる限り受賞者を増やす方針 (両国均等)・ 口頭 6 つ (金・銀・銅で各 2 件)、若手 4 件、ベストポスター 10 件 抄録審査：双方個別に実施・実行委員も審査に加わる 基調講演：AAPM 会長 (WEB)、AFOMP 会長 (KSMP 側が招聘) 大会中に総会を行わない 日本から 300 人程度の参加を想定 JRC の予算想定 (補助申請は今後) 参加登録：個人情報の共有を想定したが、日本側で確認を行う 終了後のオンデマンドのセッションについて： 1 週間以上は見るようにする予定</p> <p>質問： クーポンは amazon など日本で使えるもの (林) 韓国の意向に関わらず前回は会員への謝金なしだった (兼松) →KJMP の支払は良いが、JSMP の支払については理事会で相談する。 原稿料としての支払いがあったのではないか (齋藤) 滞在費・交通費は科研費での支払いを想定 (福田)</p>

3. 副委員長就任のご挨拶と第 124 回大会の報告（川村）

副委員長として、124 回を担当する

前回からの進捗は大きくない。

大会テーマは未定。

9/15 が大会準備・JBMP 講習会、9/16-17 が本大会

長崎大学に協力を要請する

市民公開講座を開催する

課題点

ランチョンセミナー：従来通り実施

ヘルプデスク：運営も含めて日本旅行に依頼予定

会場使用：3 日間で分割して費用負担できるかを確認する

エクスカージョン：現地で満足度を高める取り組み（観光ツアーなど）

実行委員：現地でのみの編成。大会支援委員会へ応援依頼も想定。

企業への依頼：

100 社程度を訪問し資料を配布しながら協力依頼の案内を行った

学会会場でも幕間に周知の広報を行った

今後は具体的な内容を踏まえて広報活動を展開していく

質問：

市民公開講座について、科研費で申し込める情報を得た（福田）

JSPS 研究成果公開促進費 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/13_seika/keikaku_dl.html)

140 万円程度。学会としての申し込みが必要かもしれないため理事会で確認

申請を各大会長が行うのは煩雑なため、大会支援委員会の継続支援を想定（兼松）

スタッフの人員確保の必要があるため、人員数と手配先の確認がいる（久米）

→地方大だと学生のアルバイトが期待しにくいいため日本旅行にも相談する

秋の大会での謝金事例：学会員 3 万円・非学会員で 5 万円（山本）

4. 学会 HP の委員会ページの状況（亀澤）

作成中のページを確認

事業計画・大会準備状況報告・委員会議事録【会員限定】※運用については要相談

事業計画については全体が確認しても問題ない。

議事録については内部情報を含むため、パスワード PDF で掲載

会員へパスワードを周知する方法は：ML

その他にアップロードしたい素材の確認

→ 大会ポスター、大会 HP など、各大会長から依頼を受けて掲載する

質問：

ポスターの閲覧は会員だけになるのか？（川村）

→ 媒体ごとにパスワードを設定が可能。委員会 HP のパスワードを共有

119 回のプログラムがない件について事務局に確認したが返答がない

方針が不明であったため掲載した状態でテストページを作成

直前で WEB 開催となり、ページがなくなり検索不可の状況。

管理が国際文献なので、費用を確認の上、有村先生から篠原先生に再度相談する

公開時期について

→ 委員会内のみでパスワードを共有し供覧、次の委員会にて決定

大会記録として有意義。テキストベースは可能か（川村）

→ 一般演題は既にある。発表時期と発表者を確認可能（兼松）

以前は福島医大の先生が行い、それを JRC が引き継いだ（斎藤）

市民公開講座を秋大会に集約し大会長募集の要件に加えるのはどうか（兼松）

→ 開催方式は WEB 単独の方が集客・広報の意味があるか（福田）

市民公開講座なので、現地開催が良いだろう（兼松）

市民公開講座は学会の年間活動計画に含まれ、JSMP として大きな項目

大会長にとっては学会プログラムに加えて重荷になる（久米）

→ 秋大会時に次の秋大会の会長を選出する

124 回の開催に向けて、大会支援委員会から協力者を募りたい（川村）

→ 大会支援委員会は人材のプールとして活用する（兼松）

AFOMP からコラボレーションの依頼（林）

→ 数年前から依頼があり、基本的に毎年行う（兼松）

第2部 6月3日(木)

1. 前回議事録確認

変更なく承認された。

前回現地参加で未登録者は申し出を。

2. 第121回大会の報告(兼松)

引き継ぎ資料を5/10にWEB会議で作成(資料は議事録とともに展開)

委員の概要

参加者数の報告:919名(現地297名 約3割)例年に比べて1割程度少ない

バナー広告のスポンサー:1件10万円

問題点は当日まで来られないという連絡があり、動画登録対応などが大変だった
発表がなくなったのは一般演題で3つだけ

予算は未確定の内容が示されている

3. 副委員長就任のご挨拶と123回大会の報告(西尾)

プログラム委員会の常設組織を要望(兼松)

分科会の長は当事者として直近のプログラム委員会の長を想定

過去のプログラム委員長経験者と有志でデータベース・ルールを作成し管理
委員会以外からもメンバー追加は可能

次の理事会で承認を経て進める

JSMPが大きくなり常設のプログラム委員会についてJSRTと協議中(福田)

賞の選考基準が会毎に変わらないよう同じメンバーを含むべき(石川)

委員会には主査と幹事が必要(水野)

カテゴリーは大きく変わらないため継続担当と新規の両方で構成したい(西尾)

構成は自由。プログラム委員会は運営規定など継続性を保証する仕組みが必要
→分科会、主査は中村先生で幹事は米内先生とする。

大会支援委員会の分科会としてその場を提供したいと考える。(兼松)

合同シンポジウムについて(西尾)

放射線治療技術の変革、未来への道標(仮)

FLASHに関連する技術などを発表してもらう予定。

ハンズオンセミナー:今回はAIをテーマ

北海道大学から死亡後AIのセミナー提案。

6コマのうちJSMPとして2枠を使うかを今後検討

来月の委員会までに、メーカへのアピール用として ITEM の予想人数の要望
学会の目線で、ITEM の機器紹介をすることの提案

合同セッションの部屋は共有する方針

英語タイトルの書き方の統一（頭文字だけ大文字）・10/31 が演題締切

→土日に UMIN のシャットダウン作業が多く、少しずらして 10/29（金）想定

JSRT と情報共有して、インターナショナルセッションの状況を確認する。

（JSRT が 60 で JSMP が 48）

演題登録の時点で、パブリッシュされていなければ発表 OK

論文がすでにアクセプトされていた場合は COI で明示する

質問：

発表の開示について（兼松）

→JSRT のルールでは演題登録時点。投稿は可で、アクセプト前なら可。

論文投稿中の COI の内容はどう説明したら良いか？（石川）

→AAPM では開示。論文投稿の内容を発表しても良いが説明が必要（兼松）

123 回に向け、大会長・実行委員長・プログラム委員長などの選定期間は？（西尾）

→ JRC からの年表を参照。大会長が取り仕切る。（兼松）

海外招聘は早めに確認。全体の構成は早めに固める必要がある。

コロナであっても同じ金額が招聘費用として配分され予算が余る場合も。

予算の限界があるので、1 名あたり 60 万円程度かかってしまう。

アジアでも 20~30 万円程度かかる。国際交流委員会の予算を決めておく方が無難。

JRC で 50 万円/人。エコノミーにして人数を増やしたこともある。（福田）

JSMP 側で zoom での質疑応答を利用したい（石川）

→zoom はオンサイトのために利用している（兼松）

JRC 側としては、横浜に来ていただくための発言（西尾）

JSMP として zoom でできたという実績を報告済み。

必要が出てきた場合には、こちらで提案すれば反対はされないだろう

来なくても発表できるというネガティブな意見もある。

どうしても来れない場合もあるので、用意をしながらも基本はオンサイト。

オンライン発表で事前にビデオ収録を行う案内は早いタイミングが良い（石川）

→ 来場者が減らないよう、整備してアナウンスを保留（西尾）

3月末の時点で参加できない方には動画を提出いただいた。(兼松)
動画を用意して現地に参加された方もいた。

JRCに依存せず、大会支援委員会で独自にzoomシステムを用意できないか(石川)
→当初大会別に運営する想定だったが、足並みを揃えることとなった。

JRCはしっかりサポートしたい前向きな面があり、勝手な構築は逆効果(水野)
議論がなければ参加者が減るため、JIRAはシステム導入に賛同(兼松)

JRSが試験的な導入を決定したため、その結果の議論をした上で交渉すべき(米内)

発表する人が来なくて済むという件について(米内)

出張禁止など何も証明することがなかったが今後も同様か?

→本人が感染を忌避することもある。そこまで追及することはできない。(兼松)
ポスターもCyPosもあるので、要件は満たしている。(西尾)

4. 第125回大会の報告(阿部)

タイムテーブルなどの資料があれば提供いただきたい

→各フェーズで提供され、前年度のものがアーカイブにアップされている
最初はテーマ。合同シンポジウムの相談を前年夏に行う。
具体的な委員を決定するのは約1年前。

プログラム委員について、レフェリーのようなデータベースがあると良い

データベースについて(斎藤)

福島医大の小林先生から、学会広報委員へ引き継がれた。
エントリーされた演題をエクセル形式で渡すと反映される。
去年1年分が抜けておりAFOMPもないため、追加が必要。
→引継事項に追加し毎回対応する。

AOCMPについては、アブストラクト集がある(福田)

データベース化は可能で、日本人だけで良いのかの判断が必要
効率の良い方法で作成する

次回開催